

【研究者インタビュー】 No.6 総合リハビリテーション学 研究科 大関知子 教授

引用	研究者インタビュー. 2019, 6
URL	http://hdl.handle.net/10466/00016998

リポジトリ・オープンアクセス研究者インタビュー No.6

総合リハビリテーション学研究科 大関知子教授

2019年11月20日(水)

図書館ではリポジトリ、オープンアクセスについて広く知っていただくために、研究者インタビューを実施しています。今回は、2017年度、2018年度リポジトリダウンロードランキングの上位論文「[朝食欠食習慣を持つ大学生のための教育に関する研究](#)」(*Journal of Life Science Research*, 2011, 9, p.31-37)の著者である大関先生にお話を伺いました。

図書館：

リポジトリに登録された論文「朝食欠食習慣を持つ大学生のための教育に関する研究」について教えてください。



大関先生：

この論文の発行から、もう10年近く経っています。食生活相談会に参加した学生さんに「朝ごはんは食べていますか？」と尋ねると「食べていません」という回答がかなり多く、何と関連しているのか、そして、関連していることがわかったらどんなふうにアプローチしたらいいのか、ということが知りたくて論文にまとめました。栄養教育はすぐに結果が出るものではありませんので、毎年、相談会の時に地道にやっというこことで続けています。

図書館：

この論文は学外からのダウンロードが多いのですが、アンケート項目の中に居住形態なども入っていて、同じような調査をする方には参考になると思いました。

大関先生：

以前は独自に作成したアンケートを使っていたのですが、現在は、大学生協さんが作成されたアンケートを使っています。他大学でもこのアンケートを使って食生活相談会を行うことがあるそうなので、統一されたアンケートを使った方がいいということになりました。他大学では相談会への出席者はあまり多くないようなので、食生活で気になっていることについて学生同士で話してみるという形を取ることになりました。栄養療法学専攻の学生は、他の学生たちも栄養のことを知っていると思込んでいます。「主食」、「主菜」と言ってもピンとこない学生に実際に出会って、改めて話すことの難しさを感じてもらうことも目的の一つとなっています。

朝食欠食については、この論文を書いた頃から話題になっていたのも、今も状況は変わらないということですね。朝食を抜くと朝眠くなったり、頭の回転が悪くなったりするので、できれば食べてもらいたいのですが、「昔から食べない」、「朝は食べられない」と言われることがあります。「ジュース一杯どうですか」、「バナナ一本いかがですか」、「おにぎり食べられませんか」、というところから始めて、食べられるようになったら、こんな風に作るという感じですよという感じで進めることを目指しています。

図書館：

総合リハビリテーション学研究科の紀要論文はリポジトリに積極的に登録していただいています。学外から全文を読むことができるので意義があると思います。先生は他大学のリポジトリなどを参考にされることはありますか。

大関先生：

よくあります。栄養教育とか食生活の実態というのは国や文化によって状況が異なるので、海外文献では、その背景が違うため単純には比較できません。また、国内の調査結果を英文で国際論文として出すことはあまり多くはありません。食生活や栄養教育に関する学会誌もありますが、紀要論文になっているものが結構あって、どのような調べ方でこのデータを出したのかなどを知ることができます。特に卒業研究では、CiNii で調べると大学紀要にヒットすることが多くなります。大学紀要では、アンケート調査の調査用紙まで掲載されていることが多いので、大学生の卒業研究にはとてもよい教材になります。また、紀要論文と学術誌の違いなど、英語論文にするには何が必要か段階を踏んで考えることができます。研究者としては国際論文にしたいところですが、日本の食生活があつての栄養教育です。日本では食育システムのモデルがありますが、欧米の各国ではあまりバラエティはありません。日本ほど食生活がバラエティに富んでいるところはほかにないと思います。そういった意味で栄養教育の分野では、国内論文が、紀要論文で多く全文が読めるという点はとても助かります。

図書館：

本学では2017年にオープンアクセス方針を施行しました。図書館としても、オープンアクセス推進のため、先生方にはリポジトリへの積極的な登録をお願いしたいと思っています。論文だけでなく授業の教材なども登録できます。学内外からのニーズはあると思いますので、著作権などの問題もありますが、無理のない範囲でご協力をお願いします。

大関先生：

そうですね。食生活相談会の際、学生が作成しているレシピ集などは取り組みやすいかもしれません。作成した学生たちにとっても、多くの人に活用してもらえることはうれしいことだと思います。できることから始めていきたいと思っています。

図書館：

最後に図書館にご要望などはありますか。

大関先生：

学生たちの文献検索のサポートをお願いしたいですね。学生はオンラインで探して思うものがみつからなかったら「ありませんでした」って言うんですね。図書館にないか、図書館になかったら「カウンターの人に聞きなさい」と言っているのですが。

図書館：

大関先生、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。